



芸術科の進路・受験について

そろそろ1年次も終わりになります。まだまだ早いと思いたいところですが、進路についてしっかりと考えていきましょう。今回は芸術系の進路・受験についてのお話です。

芸術系大学を受験するには、ほとんどの場合実技が必要になります。その実技は、長い時間をかけて専門的に勉強する必要があります。自分が得意だからということで、通用するものではありません。3年次になってから、突然芸術系に進みたいという人が毎年のようにいるのですが、3年次になってからでは遅いと考えていてください。今、芸術系の進路を考えている人は、すぐに担当教科の先生に相談してください。

音楽科

音楽を学ぶことはとても有意義なことです。しかし、学んだことをいかして、音楽に関わる“仕事につく”となると現実的に大変厳しい状況が起こります。ここで簡単にまとめられることではないので、知りたい人は音楽科担当まで相談しにきてください。

※以下に音楽系進学のポイントだけ挙げておきます。

- ・音楽の単科大学（いわゆる音大）は、主としてヨーロッパのクラシック音楽の演奏技術や理論をアカデミックに勉強するところです。
- ・音大以外でも、教員養成系の学部や、“芸術学部”といった名称の学部の中に、音楽を専攻できる学科もあり、単位数は少ないのですが、音大と同じようなカリキュラムが用意されています。
- ・私立の音大は、学費面でたいへん高額になります。
- ・入試には、実技試験や楽典・聴音・ソルフェージュなどの試験が課されます。これを自力でこなすことはできないので、個人レッスンを受けて受験するのが一般的です。当然受験までに高額なレッスン代が発生します。
- ・音楽系の専門学校は、いろいろな意味で要注意！です。かならず担当まで相談しにきてください。
- ・音楽を専門的に学んでいくと、文学、歴史、数学、物理学、語学の教養が必要不可欠となります。今やっている授業を大事にしてください。

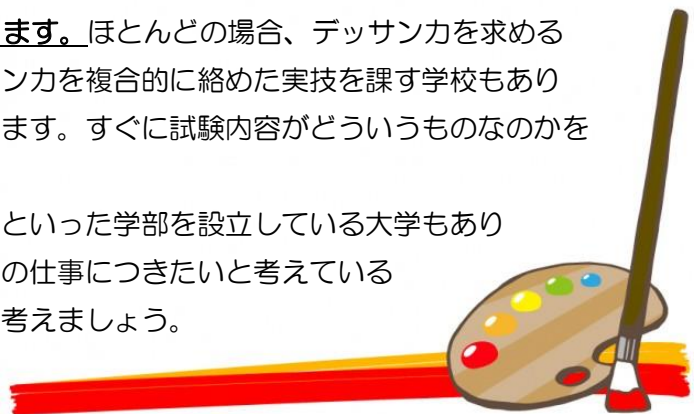


美術科

美術系を目指す人は、将来何になりたいかで選ぶ学部が違います。通常は教員になりたい人は教育学部の美術科、デザイナーや作家になりたいのであれば芸術大学、美術大学の油絵科、日本画科、彫刻科、デザイン科というようにそれぞれの科を選びます。何科にするかは受験時に決定してはなりません。今から、考えておいて下さい。（芸大、美大でも教員にはなれます。）教育学部、芸術・美術大学の受験には実技が必要です。実技については、研究所と呼ばれる美術の塾に通うのが一般的です。最低でも3年次の4月から通ってください。中には「研究所に通わずに学校で教えてください。」という人もいます。絶対にダメだとは言いませんが、なかなか上手にならないで苦しい思いをすると覚悟しておいて下さい。なぜなら、実技は自分で「制作する」と同時に「見る」ことをしなくてはならないからです。上手い絵や立体作品、その制作過程を見て学ぶという側面が大きいからです。担当としては研究所に通うことをお勧めします。また、国立の筑波大学の芸術学群や教育学部を目指す場合は、学科試験でも高得点を取る必要があります。2年次から実技を始めて、3年次は学科に集中できる環境を作ったほうが受験には有利に働くと考えてください。いずれにしても、絵が得意だからというような独りよがりの作品では点数が取れません。どうすべきなのかをじっくり考えてください。

また、**理系のデザイン科で実技試験を行う大学もあります。**ほとんどの場合、デッサン力を求めるものですが、過去には読解能力と空間認知能力、デッサン力を複合的に絡めた実技を課す学校もありました。いずれにしても、実技の修練には時間がかかります。すぐに試験内容がどのようなものなのかをしっかりと調べて対策を考えましょう。

最後に、実技試験を課さない造形学部やデザイン学部といった学部を設立している大学もあります。大学で美術を学ぶことはできますが、将来美術系の仕事につきたいと考えているなら要注意です。よく就職先などを確認してから進学を考えましょう。



書道科

関東圏で、書道を受験科目として使える国立大学には、筑波大学（芸術専門学群）や東京学芸大学（中等教育教員養成課程書道専攻）があります。いずれにせよ教育系の大学ですので、中学・高校の国語や高校の書道の教員免許を取得することができます。（大学内でがんばって単位を履修すれば、英語や小学校教諭、幼稚園教諭の資格も取得できます。また、司書や博物館学芸員の資格も取得できます。）

本来、書道が好きで書道の先生になりたい、という人がそのような学部に進学するのが理想です。しかし、共通テストの結果を受けて、偏差値や倍率の高い国語専攻から書道専攻に志望を変更し、合格を勝ち取る（書道は子供の時から習っている）人もいます。大学にもよりますが、おおよそその大学では学科の枠を超え同じ授業を履修できますので、そういう受験の仕方もアリではないかと考えます。

さて、受験科目としての書道ですが、実技と理論の2分野の実力を問われます。共に、高校の教科書（書道Ⅰ～Ⅲ）の範囲から出題され、実技では見たものを正確に臨書できる力が、理論では教科書に登場する単語を適切に説明できる力が求められます。共に先入観のない方が伸びやすく、ゼロからでも1年あれば対策できますので、少しでも気になる人は相談に来てください。

